情を三田会長の代理として述

本山岳会と英国山岳会の変らない友

イン・テーブルには私を含めて五名の

・ジャケットにブラック・タイの正装

ついでながら会場のカフェ・

ていれば、昨年は女王の銀婚式があっ

おそらくサーの称号を

てもボニントンが南西壁登山に成功し んでいないように思います。それにし

> いますが、老大国英国衰えたりといえ を望んでいる人もいまだに数多いと思 ることを名誉であると思い、かつそれ

アルパイン・クラブ健全なりと

ャーナル』に自分の書いた登山記が載

世界の登山界でも『アルパイン・ジ

知人の日

カー協会の

もちろん全員男性で、

しかもディナー

五〇名ほどの会員の出席を得て、メ カスのカフェ・ロイヤルの会場には れる名誉にあずかりました。正確に

は十二月五日の夜で、ピカデリー・サ

英国山岳会の年次晩餐会に公式の客人 吹奏するのを霧の中に聞きました頃、 を待つ間、楽隊がクリスマスの音楽を 十二月の冬空の下、ゴルダーズ・グリ

ンの駅前でオーバーの襟を立てバス に出た中野に当る街にありますが、 東京でいえばちょうど地下鉄が地

(オフィシァル・ゲスト)として招待

造りの古い建物の中に、元は弁護士の ク・ストリート一一三番地の赤レンガ ク・レーンから一本東側にあたるパー 地の一角に、ハイドパーク沿いのパー ドンの中でもメイフェアーという高級 私が調査専門の副所長として、たった ロンドン事務所は所長が地質専門家で 当地での仕事と生活にも少しずつ慣れ 当地からお手紙差上げることに致しま 国の登山界の最近の様子などときどき ますが、せめてもの罪ほろぼしに、英 うとやっております。山岳会の海外連 部屋を借り応接には立派な家具を入れ 事務所だったという小ぢんまりとした て参りました。私ども石油開発公団の したが、その間パリとチューリヒに各 二人だけの小さい事務所ですが、ロン 絡担当の仕事、任期中途で他の方々に 回出張旅行をしたりして、 送惑をかけて申しわけなく思ってい ロンドン着任以来はや三ヵ月たちま 英国流にティーを楽しみ、ゆうゆ ようやく

> 5 2

ザン・ラインのゴルダーズ・グリーン 毎月の集会にはつとめて出席するよう

私の家は地下鉄のノー

いう駅から二つ目のヘンドンとい

英 玉. Ш 岳 会 0 近 況

神 原

達

次晩餐会と同様に、

ソマーベル老やティルマン老にも逢 のトーストとアルパイン・クラブへの 定刻よりかなり早目に会場に行き、

五分の南オードリー街にありますので

英国山岳会は私の事務所から歩

メイン・テーブルに座りました。私の髭を伸ばしっぱなしのボニントン氏もベレスト南壁から帰ったばかりで顔中 も話をしたかったのですが、耳が少し ルカッタ時代に知る) ラヤン・クラブのセクレタリーで在カ 氏の配慮で、私がよく知っているライ 隣はこの会のセクレタリー、ベーカー 遠くなられているようでした。またエ 右の書としていた本です。様々なこと ラヤ』は私も在ネパール時代ずっと座 れるそうです。その『ネパール・ヒマ 毎日プールで泳ぎ身体をきたえていら 握手しました。ティルマン老は今でも ブラリアンのローフォード氏 が座りました。 一元ヒマ

め英王室へのトーストがあり、客人へ 行ない、そのあとエリザベス女王はじ 会の進行は本会の年 会長が年次報告を 刷されているのは少々面はゆい思 ル・ディナーに招待されたそうです。当 招待者のリストに私の名がわざわざ印 こで英国フットボール協会のアニュア 渉外担当の理事をしていたM氏 のメニュー一部同封申し上げます。

うです。その点で、日本の新聞のロンてもらいたかったというのが本音のよ 山隊に大変期待していたようで、それ 記事の末尾に報じている英国人の声と ドン特派員がボニントン隊登頂断念の 今度こそは本当の英国人に頂上に登っが、英国人にとってはそうではなく、 国人でも同じではないかと思うのです が考えるとニュージーランド人でも英 いうのがよほど残念なようで、私ども 同峰初登頂者は英国人でなくニュージ が登れなかったのを非常に残念がって いうのは、この辺のニュアンスをつか いました。というのは、一九五三年の 英国では昨年のエベレスト南西壁登 ランド人のヒラリー卿であった、

ったとか、その様子はJACの集会と用の顔ネットを持って行ったが有効だ

同様ですが、要は若い英国人がアル

イン・クラブの集会報告者として招か

ることを誇りにしている点です。

えば、グリーンランドにはヤブ蚊が多 言をしているのには感心しました。例自分たちの昔の体験を含めて様々な助

く困ったという若者に対し、さる老会

員はアフリカの奥地に入った時に養蜂

そのご老人方も熱心に聞き入り、かつの山々を登ってきた若者の報告には、

0

梓会だより………茶谷東海 山岳映画……田中 須金岳から虎毛山……中村純 本文 『アルプス山とライン河』 の著者中目覚氏……山崎安治 〈山日記〉73年度版……渡辺公平 武田久吉著作目録②……春田俊郎



昭和 48 年 (1973 年) 月号(No. 333) 日本山岳会 (J. A. C.)

次 

会告..... 英国山岳会の近況……神原 達…1 田部重治追悼歌……山下久男… 3 山岳会群像(スケッチ)…吉阪隆正… ワンデー由来……板倉勝正… 5 ヵ年計画……市村貞夫… 橇旅 10000 キロ……植村直己… 5 中目覚先生略歴……名須川浩… 地球の履歴書……伊藤秀五郎… 山と蝶のものがたり10…春田俊郎… はるかなる天山……望月達夫… 9 お知らせ(山岳史懇談会)………… 会費値上げについて……成瀬岩雄…10 上高地山岳研究所 10 ルーム日誌 10 ルームロ誌 10 2 月理事評議員会 10 復活・新入会員 住所変更 11 学生部マラソン大会 11

いうことを強く感じました。 一田幸夫宛

ありアルパイン・クラブも他のクラブ・ロウンテニッリング・カウンシルが このような伝統ある古い会の運営と対 情が判り次第お知らせします。(英国 社会的な面については今後少しずつ事 で、入会はきわめて限定しています。 には日山協に相当するブリティッ 英国山岳会は現在会員七〇〇名ほど シュ

告され、それを聞きにくるのは日本と

における活動ぶりがスライドと共に報

人登山者(会員とは限らない)の海外

競売用の絵の下側に入って見られませ 会の財産である昔から伝わる山岳画は 財源となっているようです。

んでした。

集会は月一回、

主として若手の英国

を貸会場として絵画の競売などに貸し

と同様にその一員です)。

そのような小さな会ですので、JA

同様に財政は大変なようで、集会室

て収入を得ていますが、これが有力な

おかげで

同様にご老人が多いようです。し

十月の例会でしたか、グリーンランド

## アルプス山とライン河』 0 著者中目覚氏

### 広島で発行されたもので「東アルプス 日記」、「瑞西めぐり」、「萊因日記」の 売品の小冊子がある。大正九年六月、 『アルプス山とライン河』という非

二篇を収めてある。

緒言によると「東アルプス日記」は

のを一冊にまとめたのだという。 日から三十日の『東北新聞』に載せたも リュッセルで草し、同年十一月二十二 稿し終わり、同年十二月十一、十二、 明治三十九年の秋、住み馴れた維也納 たもの、また「萊因(ライン)日記」は 十三、十五日の『東北新聞』に掲載し は明治三十九年十一月二十八日パリで 新聞』に載せたもので、「瑞西めぐり」 起稿し、十月三日に書き終わり同年十 十三、二十二日、同四十年一月十二、 「半月の記」と題し、明治三十八年ブ (ウイーン)の都を去る時、大急ぎで 一月二十六日から十二月一日の『東北

わずか七十四ページの小冊子である

などに登り、インスブルックに至り、 らみてもまことに貴重な記録である。 前にヨーロッパ・アルプスを訪問した スイスの山々の麓を歩き、 チルビッツコーゲル、グレベンツェン ベンから、ホーエタオエルン峠を越え、 き出しで、ウイーンを出発し、トリー て、背には背負袋を荷なう」という書 柔かい帽子をかぶり、金剛杖を手にし 邦人登山者の紀行として、登山史上か 西日記」の二篇は、日本山岳会設立以 が、とくに「東アルプス日記」と「瑞 の麓をシャモニーに出て、 七月九日、晴、欧州の山登りの服装と いうものをはじめてした。脚絆をはき、 「東アルプス日記」は「明治三十七年 ーンに戻っている。 モンブラン 九月一日ウ という一文を発見した。

時広島高等師範学校教授の職にあった 理』(第一巻第六号および第七号)に 耳其文字」を発表、さらに『歴史と地 雑誌に「我国に保存せられたる古代土 二月には『尚古』(第七十一号)という 四十五年にここへ足を運び、大正七年 は勇敢にもその判読にとりくみ、明治 **窟の古代文字について、語学者中目覚** 北海道小樽の手宮山山麓にある手宮洞 版会発行、斎藤忠著)を読んでいたら ま『日本の発掘』(昭和三十八年東大出 はないかと気がついた。また、たまた べられており、この中目覚氏がさきの 教頭の中目覚さんだったと思う」と述 なった。私を旅行部長にしたのは多分 大正八年で、私が校友会の旅行部長に 氏が「松山高等学校が創立されたのは 本に眼を通していたら著者北川淳一郎 十六年十月松山市松菊堂発行)という だが、その後『愛媛の山岳』(昭和三 思いながら、そのままになっていたの かった。この著者のことを調べようと で、どのような方かまったくわからな いてと題する文を発表したが、彼は当 「北海道手宮洞窟の靺鞨語墓誌」につ 「東アルプス日記」の著者であるので この著者は文学士中目覚とあるだけ

の『いしづち』には、第六年度(大正 ウトラインはわかったが、偶然にもこ ていた。これでだいたい中目覚氏のア 大阪外語の校長に栄転されたと書かれ ており、松高在任期間二年で、新設の もう少しくわしく中目氏のことを述べ 二年五月発行)には編者の北川氏が、 歴史をまとめた『いしづち』(昭和四十 さらに松山高校山岳部の三十一年の 三年~十四年)の卒業生の消息の中

ていただくようお願いした。 とをお知らせし、中目氏の経歴を調べ とライン河」のことと、中目覚氏のこ あえず私は名須川さんに「アルプス山 古い会員の方である。とるものもとり や年次晩餐会などでよくお目にかかる 名須川氏といえば、本会の有志閑談会 に名須川浩氏の手紙が載せてあった。

山 崎 安 治

ら電話をかけるという熱心さで、つい 東京中の中目姓の方たちに片っぱしか ご遺族とも会われ、略歴をまとめてい ただくことができた。 に中目氏(ナカノメと読むという)の 名須川さんは私の話を聞くと即座に

#### 中 目 覚 先 生 略 歴

名

須

Ш 浩



業(ドイツ文学)、成績優等にて銀時計 三十二年七月東京帝国大学文科大学卒 仙台の伊達藩士の旧家に生れた。 明治二十九年第二高等学校卒業、同 中目覚先生は明治七年五月二十三日

り出しに、明治三十六年九月広島高等 学校教授(教頭)、大正十年十二月大阪 師範学校教授、大正八年六月松山高等 外国語学校長(初代校長)、昭和十四年 治三十二年八月第四高等学校教授を振 先生は教育に生涯を捧げられた。明

> 生家で逝去。八十四歳であった。 和三十四年三月二十七日郷里仙台市の 六月北京興亜学院長を歴任された。昭

ガリーに留学された。満三年余の間ウ 勧めで、当時の新しい学問としての地 である。溝淵進馬先生(四高校長)の 教授から広島高師教授に移られたとき を教えられるようになったのは、四高 地理学の教授であった。先生が地理学 十七年夏)のことである。 旅して歩かれたのは、この間(明治三 れた。先生が東アルプスからスイスを イーン大学を根拠として、各地も回ら 理学知究のためにオーストリア、ハン 先生はドイツ語の教授であると共に

赤十字勲章(金)を授与された。 を、昭和八年五月十八日最高のドイツ 十四年七月十日 フランス教育功労章 めた文化功労者として、フランスとド また先生はその国の文化を国際的に広 めてフランス語の講義もされていた。 山高等学校教授のとき、若手教授を集 ターされたものだそうである。後年松 した。先生のフランス語はその頃マス 時代には正課以外のフランス語に熱中 も及ぶともいわれている。二高の学生 そのほか理解された国語は二十ヵ国に 語に通じていることで有名であった。 スペイン語、エスペラント語の七ヵ国 イツから勲章をおくられている。大正 語、フランス語、中国語、イタリア語、 先生は語学に堪能で、英語、ドイツ

て調査された記録も残されている。 常右衛門常長の足跡を数度海外に赴 を訳した記録とか、郷土の先覚者支倉 小樽手宮洞穴の石文(古代トルコ文字) とに興味を持たれたといわれる。また 民俗の興亡のはげしい中近東の地域に 視察は数回におよんでいるが、とくに かシベリア、印度、南米、蘭印と海外 ついて民俗史を、こして民俗を探るこ 先生は欧州、中近東、西アジアのほ 先生の著作には次のものがある。大

> 紀行文献として興味が深い。 阪外国語大学に保管されており、 古い

- ・『アルプス山とライン河』大正9出 版(明治三十七年の紀行で当時東北 萊因日記の三篇収録、74頁 非売品 の)東アルプス日記、瑞西めぐり、 新聞に連載されたものをまとめたも 『樺太の話』 大6 一七五頁
- 『バルカン旅行談』 会出版 62 頁 『バルカン旅行』昭6 ドナオ河を下 大阪地理学
- るの記、露西亜に入るの記、 信文 五一頁 非売品 『バルカン旅行談』付録一一通の通 に入るの記の三篇 五六頁 非売品 土耳其
- 号抜刷 三五頁 二頁 非売品 『中目五代之家庭教育』 昭6

『渡欧日記』

六三頁

非売品

『氷河と飢饉』

大6『尚古』第88

- 三六頁 『小樽の古代文字』 大 15 春陽堂
- 『同右』 (広島) 出版 三六頁 大8 地理歴史学会
- 『オロッコ文典』 大6 三省堂

『ニクブン文典』

大6

三省堂

であった。学生に対する訓示は極めて 生から人気があった。 簡潔で、それが却って明快であり、 先生は見るからに、温容で豪放磊落 一六六頁 学

身内の方から伺った。 は二十歳も若く見られていました、と 人を気の毒がるような風でして、人に いことしか考えず、せかせかしている ことを考えず、景気のいいことや愉し 早寝、早起き、酒を楽しみ、いやな

然に親しむことを好まれた。(北川淳 には郷里仙台市で、 缶史 昭42でその一端がわかる)。晩年 一郎編『いしづち』―松山高等学校山 先生は、住む土地の山野を歩き、自 よき書を

多くのこして逝きませる

もかげ顕く冬空に立つ この居士の学びし四高 富山に向けし 汽車を追ひしと 公園のベンチにかけて その頃は りとり出で 今更に読む 新緑の頃がよろしとしたためしたよ

今もなおお

居れば霰とぶ音

立山を称え育ちし居士をしも偲びて

筋に生きし居士はも 山仰ぎ 溪谷覚めて たるげに貴けれ 文徳院英峰日治居士

文学の道ひと

天寿を全うし

居士のみこころ忘れざらめや

食べる野趣を楽しまれた。 会員として「雑草会」を作り、 先生は日本山岳会々員ではなかっ

の間にも中目先生に触れたことはなか また田部さんと木暮さんとの永い交際 ているが会ってはおられないそうで、 方教える珍しい教授として名前は覚え られたときで、ドイツ語と地理学と両 目先生は外遊から広島高師の教授に移 あるが、田部さんが四高の学生の頃中 ったということを、田部さんのご生前 大先輩や田部重治先生の頃になるので た。学校の年代からすると木暮理太郎

忍ぶよすがとなっている。 ったようで、前記の紀行だけが当時を れに関してあまり語られたことはなか らいって日本の登山史に残される珍し 旅は明治三十七年という時代の古さか い山旅であるが、先生ご自身は後年こ 中目先生の東アルプスとスイスの山 (一九七二年十二月九日

田

部重治追悼歌

山

下

久 男

冊でもより多く売るためには発行

日記 》七三年 版

佘山

#### 辺 公 平

方に賛成できない。 あろうが、僕は必ずしもそういう考え こともないじゃないかという考え方も ない。山岳会なんだからとやかくいう すぎた。これじゃとても商売にはなら って出た。日記としてはあまりにお子 (山目記)七三年版が一月の下旬にな

版を引きうけている茗溪堂にとっても 売れた方がいいのに決まっている。出 財源の一つである以上、一冊でも多く 〈山日記〉が山岳会にとっては大きな

判る。

とっても迷惑な話である。 えるかはわかりきったこと。 からの発行が売行きにどんな影響を与 もない。日記である以上、年を越して の時機を逸してはならぬこというまで

てしまったが、七三年版をざっと読ん ことを忘れぬようにしてほしい。 書店の店頭に並べられる出版物である 員だけの同人雑誌的なものではない。 されなくてはならない。〈山日記〉は会 としたら、〈山日記〉に関する限り修正 う "山岳会的" な考え方が、もしある みな片手間にやっているのだからとい ていた筈である。商売じゃないのだ、 あるが、最近は毎年十一月発行を続け でみると編集委員の苦労のほどもよく 紹介する前に余計な憎まれ口を叩い 以前も正月になってから出たことが

三部からできている。 山のために」「山と人」「登山案内」 だいたい昨年と同様、ことしも 容 の

く続けられたこともある。ページ数の それ以前には登山の注意、冬期登山、 関係から、結局前記三本に絞られたの ジである。七一年版以来、装備、医療、 ど変ってない。世界の山を除いては。 容も多少加筆されているだけでほとん 山岳気象、地図使用上の注意などが長 要な部分で、また最も権威のあるペー 郎)から成り、筆者も昨年と同じ。内 永敏郎)の三章と世界の山(吉沢 遭難対策の三テーマが続いているが、 葵) 山の医療 (景山孝正) 遭難対策 (松 この第一パートは〈山日記〉の最も重 「登山のために」は山の装備(村井

るような記事がいいのか。

その辺の判断もむずかしい問題だが

スする実利的な、あるいは心の糧とな か、それとも、もっと利用者にサービ こういうページを設けることがいいの うな読み物性というか、遊びというか、 物になっているが、〈山日記〉にこのよ

かという迷いが出る。 年書きかえねばならぬような必要はな と同じ内容のものを提供するのもどう いのだが、購読者を意識すると、前年 テーマがテーマだけに、そうそう毎

らば、年によって異なった考え方が出 ま掲載されたものもある。 方さんの登山の注意など五年もそのま じ原稿が続いてもおかしくはない。松 てくるわけでもなく、三年や四年は同

吉阪隆正

しかし毎年なにか新しいものをとい

山岳会群像(年次晩餐会スケッチ)

のではないかと思う。 山と人」は、これも最近の試みだ

観のようなものが語られていて、好読 彦)パキスタン(広島三郎)ブータン (松田隆雄)の四編が収められている。 それぞれ若い人たちの体験記や探検

であろう。

後もっとキメの細かい編集をしてほし もし読みもの性を必要とするならば今

しかし登山の基本的な問題であるな

容できなかったのであろう。 う気持を編集委員がもつのも当然であ って利用者の意見を聞いてみてもいい 数が減ったため、それに代る原稿が収 が加えられていた。七三年版はページ 七一年版にも遭難時の天気図例(同) り、七二年版には雲の見方(大井正一) 七四年版で一度思いきった改編をや

版は「我がフロンティア」でパタゴニ (吉沢岳夫)アフガニスタン(梶正 昨年のリーダー論に代って七三年

と労力を必要とする山小屋一覧表につ 改めていうこともないが、高い調査費 とに楽しいものだが、ページ数や定価 はかった方が賢明である。 うなものは省略してページ数の軽減を の温泉旅館とか、国民宿舎、YHのよ らしてもいい。場所にもよるが、山麓 のことを考えると四ページくらいに収 みても、収録する山小屋数をもっと減 いては、現在の登山者の傾向などから めるべきではないかという気がする。 絵と文「北の山」(坂本直行)もまこ 「登山案内」については例年通りで

むずかしい問題だが、私見をいわして 日記式が無駄がなくて使い易い。 もらうならば日付の入っていない自由 の使い方が、人それぞれにちがうので 最後に日記欄だが、これは〈山日記〉

かも大切な財源でもある。 迎えた〈山日記〉である。世界中で唯一 会を代表する印刷物の一つであり、 つしかない〈山日記〉であり、日本山岳 とにかく、七三度版で第三十八輯を 編集委員だけでなく、会員全体が真 L

日本山岳会編 茗溪堂刊 三四四頁 定価八五〇円

剣になってより立派なものに育てあげ

いってほしいものだ。

ワ

#### ン デ 1 由 来

いったので、以後敏叔父は「ワンデー」、 兄敏叔父が、その条りをあてられて、 中等科の英語の授業の時、宣叔父の次 うから、一寸注をつけておきたい。 習院同期生以外に知る人も少ないと思 という句がある。その由来は当時の学 冒頭に「板倉勝宣すなわちワンデー」 となってしまったのである。 したがって宣叔父は「ワンデーの弟」 えらく気取って一「ワンデイ!」と ワンデーとは英語の「或日」である。 『山』三二七号の「嗚呼五十年」

家に寄食していたことも覚えている。 馬ですってしまい、随分長く穏田の実 独立して行ったのに、敏叔父だけは競 弟たちが五千円ずつ貰ってつぎつぎに 神様的存在であったようである。 全然出世しなかったが、大人物乃至は 合理化」という言葉が流行した時代に、 ーの弟」であったが、「ワンデー」を知 だけは大鼾でボートの中で寝ていたと て、軒下に逃げ込んだのに、この叔父 ている時大雨が降って来て、皆があわ ことを記憶している。彼は世間的には ション」というキレイな発音を聞いた いう小話もある。また大正の半ば、兄 「インダストリアル・ラショナリゼイ このように 宣叔父は元来、「ワンデ ボート部で、練習がすんで一休みし

ないから、いずれも伝聞証拠にすぎな でかい声で」と注して来た。亡父は デーの弟」すなわち「ツーデー」とよ い。忠伯父によると、宣叔父は「ワン んども敏叔父の教室に居合わせた筈は 「ひどく気取って」と話していたが、こ 一)に送ったところ、この伯父は「馬鹿 (八十七歳―五人兄弟唯一の存命者



私が中学生の頃だったろうか、「産業

敏叔父は英語が得意であったらしく

右が勝敏氏) (写真提供 板倉勝正

(向かって左が勝宣氏,

ばれたこともあったそうである。

半世紀についてどんな感慨を抱いたこ じていた。叔父が生きていたら、この とだろうか! と、よく「宣スケがいたらなあ」と嘆 喜寿である。亡父は難しいことがある をすませた。宣叔父が健在なら今年は ワンデー本家の敏叔父も去年七周忌 (板倉勝正)

#### 梓 だ ょ ŋ

# 一、梓会山景十傑の選定

らない人が「ワンデーの弟」と言われ

こうして北大入学以後、山仲間の間で ても、ピンと来ないのは当り前である。

これを左に紹介する。これは会員の歩 るものはなるべく除外し、 いた所から選びかつあまりに有名で多 本山景十傑を選定することであった。 、数が行く所や観光ルートに入ってい 梓会の一九七二年のテーマ作業は日 また一地方

デー」そのものになってしまったらし は敏叔父の綽名を「僣称」して「ワン

松方さんの「嗚呼五十年」を伯父勝

に偏することを避けた。 林は屋久島(鹿児島)、滝は称名滝 ヶ岳(長野、岐阜)、峠は徳本峠(長野) 山(島根)、高山(二千m以上)は槍 高原は九重高原(大分)、岩は地蔵岳 (富山)、湖沼は摩周湖(北海道)、 (山梨)、溪谷は大杉谷 (三重)、森 山景十傑 山 (二千m未満) は大

(長野)、滝は羽衣滝(北海道)、湖黒部峡谷(富山)、森林は 木曾御岳 神峠(山梨)、高原は八幡平(秋田、 沼は蔵王お釜(宮城)、紅葉は中津峡 岩手)、岩は荒船山(群馬)、溪谷は は西穂高岳(長野、岐阜)、峠は夜叉 三瓶山 (島根)、高山 (二千m以上) 山景準十傑 山(二千m未満)は

# 二、田部名誉会長との永別

ーの高原を歩いていたので二男が代参 詠じた。筆者は当日折悪しくシャモニ をお祝いに贈呈した。その品が届いて られたので会員有志四十名から有田焼 表する次第である。 自宅で永眠せられた。深く哀悼の意を 数日後の九月二十二日、先生は杉並の 葬儀には紺野副会長が自作の弔詩を 田部会長は去る八月四日米寿を迎え

# 三、田部会長の追悼会出席

部先生の一面を紹介して追悼の言葉を されたので、成瀬同会副会長の勧めで 筆者が出席、梓会名誉会長としての田 成、田部重治三名誉会員の追悼会が催 で日本山岳会主催の武田久吉、鳥山悌 去る十一月十一日赤坂のOAG会館

> がおこなわれ、今西博士は十日帰京さ 東山温泉照月旅館で登山報告、懇親会

梓会の復活を宣言してから満十年、 数名が田部先生を名誉会長に推戴して 記念会を開いた。目黒の旧水交会で十 四、復活十周年記念懇親会の開催 去る八月十九日水交会で復活十周年 会

員は二百数十名に発展した。出席者は

谷ら三十名の盛会であった。 紺野副会長、朝井一男、

# 五、ハイキングの実施

強羅喜楽荘(懇親夕食会)を実施した。 寺(道了尊)―明神ヶ岳―明星ヶ岳― 回にわたって、大雄山駅=大雄山最乗 野の展望を楽しんだ。 駅=つつじが丘 (懇親午食会) ―女峰 十九日(日)、十一月二十六日(日)の三 参加者は岡村、茶谷ら二十名で関東平 山—男峰山=筑波神社=筑波駅、快晴、 二明神ケ岳

五

ヵ年計画

紅葉は奥蓼科(長野)。

## フィルムセンターの 山岳映画

山御登山」を見る機会を得た。殿下の 私はさる一月二十四日「秩父宮殿下立 かった。 午後二時・六時の二回)上映している。 記録映画特集 ータ初登のメンバーの顔も見えて懐し 三田両氏のほか、故人となったアルバ ィルムを(一月十八日~三月三十一日 こ英姿を改めてしのぶとともに、槇、 東京国立近代美術館フィルムセンタ (中央区京橋三―一一)では日本の ―戦前篇として所蔵フ

う。今のところフィルムセンターは重 映画の上映が義務づけられ、作品払底 品)も二月二十、二十一日に名作『或 要な劇映画は買上げているようだが、 山の文化映画としては古い方だと思 の折から実現した紛れ込みの作品で、 この映画は戦前、劇映画の前座に文化 る日の干潟」などとともに上映された。 地で上映した私の出る『日本の氷河』 (大正十五年、松竹文化映画製作所作 ウェストン祭二十五周年のとき上高

岡村治信、 茶 記録映画は専ら寄付を待っているらし 賞できるライブラリー方式なので、貴 い。国が永久保存し、必要に応じて鑑

| 一筑波山 去る五月二十一日(日)筑波

れるようになるといいと思う。 重な山岳記録映画がここに続々寄贈さ

田中

晴雨曇いろいろであったが参加者三十 名秋の箱根を結構満喫した。 去る十月二十二(日)、一 を五ヵ年で踏破する計画をわが会津に 三角点「会越界」を含めた十五峰全山 六百回記念登山を兼ねて飯豊山に、四 申しいれられ、四十五年六月には氏 今西錦司博士は会津にちらばる一等 今西錦司博士

茶谷東海

0

頂を果たされた。 一峰を十月七~九日にわたり、完全登

このたび紅葉の「七ヵ岳」「大戸岳」の - 六年五月には残雪の浅草岳に登られ

リンゴ園見物、湯の上温泉新湯旅館泊。 根集落小荒俣沢―ブナ平―大戸岳へ一 六三六m)山頂記念撮影のあと先生の な奥会津の山波を心ゆくまで満喫され 話あり、喜三郎小屋へ下山の後、車で 後歓迎会、滝の原温泉三滝旅館泊。 た。ここにご報告申し上げます。 四一六m)山頂―桑曾根登山口下山。 秋の快晴に恵まれ紅葉の色あざやか 十月九日 新湯旅館—関川上流桑曾 十月八日 喜三郎小屋—七ガ岳(一 十月七日 山王峠より喜三郎小屋着

れた。 夫 渡部衛 渡部正人 舟木平蔵 星 弓絃 高木志茂子 藤島玄 鈴木敏雄 小田辺力男 矢田目昇 ヒサエ 渡部竜吉 渡部啓介 渡辺成一 〔参加者〕 今西錦司 高木碕男 柊 杉原義幸 田原久誉 佐藤通弘 市村貞夫 豊島洋一 金沢常 井上清志 (市村貞夫) 佐藤

用のロールスロイスで東京をのりまわ せんが幸せそうです。 モー人が本当に好きになりました。 でおります。親切で人なつこいエスキ 百~二千㎞の長旅に出かけます。六月 旅を試み、三~四月には北極海へ千五 ーンランドへ海氷上を往復二千㎞の橇 犬は私にとって唯一の家族です。二月 しているようなものでしょう。九頭の を東京でたとえるなら、さしづめ自家 て極地の生活を楽しんでおります。 等と同じように白熊のズボンに正装し 下でようやく一五〇〇㎞をこなし、彼 帰国までには橇旅一万㎞を目標に励ん にはさらに十五頭にふやし、南部グリ ヘカットはエスキモーの八歳の女の子 快音をたてて海氷上を疾走する犬橇 十一月に始めた私の犬橇の旅も星の

橇旅 10000 キロをめざして 村 直 E 植

#### 00. ۵. а

### 須金岳 から 虎毛山

#### 中 村 純

リダケのようなことはなかろうとの思 くてとても無理だという。私共の方で 分の水を持って歩くことにした。 惑から、一応、全長四㎞のやぶこぎを ように重い荷物を背負って、ぶつかっ は、やぶがひどいと言っても、日高の 毛への縦走の話をすると、やぶがひど で、一人のきのことりに出会った。虎 移る。沢沿いのキャンプ地につく手前 水場が心配なので、この後は必ず二日 試みて駄目なら引返そうと考えた。唯 てもなお数十四はねかえされるネマガ ープを下に抑えつけて対岸の岩にとび 仙北沢、渡渉点にかけてあるワイヤロ て、人気は全く感じられない。やがて 数十m先でかすかな踏跡にはいりこむ ではいるのに乗り込み終点で降りた。 首に向かうバスの中、最奥の大森平ま て九十二歳の私達夫婦は、鳴子から鬼 昭和四十七年十月十八日、年齡併七 もうそこは原生林のただ中であっ

こに荷物を置いて、だだっ広い高原状 をぬけ稜線に出ると湿原があった。こ りと大きい姿を構え、後方右手に山伏 の虎毛山(一四三二m)が誠にゆった 頂一帯は鈴鹿に似て一面のササに覆わ の県境尾根を須金岳まで往復する。山 会ったりする。美しい紅葉のトンネル 実も葉も赤く染まったナナカマドに出 まう。それをかきわけながら登ると、 踏跡は時々背丈程のササに匿されてし 声で目を覚す。この登路は須金岳(一 二三七m)への裏道らしく、かすかな 十九日は快晴、カケスその他の鳥の 背伸びをしないと景色は見渡せな 一ヵ所見晴のきく所があり、行手

> であった。 張る。十三夜の月が明るく、 地点まで引返し湿原のわきにテントを 星も綺麗

前進を続け一二三八m峰に九時、 でいることがわかる。これに力を得て それでも何分か格闘すると確実に進ん cm程度、きのことりが予言したように の直径は三mぐらいで、枝の間隔は数 ピークに十時についた。 日高に勝るとも劣らないやぶである。 び込む。タケの直径は一四程度、ブナ とブナの灌木の密生したやぶの中にと だ。いよいよ背丈を越すネマガリダケ がったらしく、テントも草も一面の霜 二十日も快晴、夜中に気温は相当下 次の

くなって来た。夕方やっと頂上付近の の頃から雲は東から西に動き始め、 り再び直進困難なやぶ潜りとなる。こ 楽な沢に沿って一三〇〇m峰に近づ ので二日分の水を補給し、やぶよりは 止むなく枝の少ない場所を求めつつジ やツタも混じって直進は困難である。 り前方を見渡すことができたが、ここ 小さな湿原に着く。 気圧の襲来を予想させた。風も急に強 く。しかしこの沢も間もなく行き止ま グザグに進む。昼頃小さい溪流に出た から先はさらにやぶは深くシャクナゲ この辺でちょっとやぶの背が低くな

祝うエスキモー人。一滴も酒はありま の手を休めて凍肉を食べながら新春を 北極星が天頂にきらきら輝く夜空の下 ました。元旦の気温はマイナス三一度、 シのコア(凍肉)を食べ、正月を迎え

キモー人と四ヵ月、セイウチやアザラ グリーンランド北西海岸の極地でエス

謹んで新春のお慶び申しあげます。

で十五軒ある各家を訪問しました。

大橇で海氷を走らせ、アザラシ狩り

情をこめて一三〇〇m湿原と呼ぶこと 天地はまことに印象的で、夕日に真赤ベ小さいながらテントの張れるこの小足の踏場もないこれまでのやぶに比 にした。 に映える枯草も美しく、私達は親愛の 二十一日は雲海の上に朝焼雲が奇怪

神室山塊等も見える。

格闘

一時間半に

を終ろうというので、早々に出発した 来して、台風直前の無気味な様相を呈 う方向に進めない。この分では虎毛ま が、やぶは益々猖獗を極め、とても思 していた。氷雨が来るまでにやぶこぎ な形に盛り上がり、稜線にはガスが去 でたっぷり一日 かかりそうである。 の時低気圧は日本海を東北東に進み、 ゆらしながら湿原を歩いてみると、思 九九〇ミリバールに発達していた。忽 れさせてくれるような一刻である。こ 形の池塘があった。すべての苦労を忘 いがけず透明な水を満々と湛えた楕円 虎毛山頂はもら眼前である。紫煙をく して突然急傾斜の細長い湿原に出た。

とみえ、ダケカンバの枝に登って周囲 散り敷いている有様など仙境そのもの 早く沢におりることができた。その上 ている方向に沿って万滝沢におりるこ こで昨日の智恵にならいやぶのなび いた鳥海や月山、近くに大鏑、小鏑山 を見渡すと東方に栗駒、西方に雪を頂 拡がって来たが、大分高度をかせいだ 沢も約一㎞で斜面の途中に消えてしま を忘れて鑑賞したりした。しかしこの 南から北へと次々に飛んでゆくのを時 で、青空をバックに白いちぎれ雲が東 紅のもみじ葉が澄みきったトロの上に い遡行を行なうことができた。途中真 メありで今までとはうって変った楽し この沢にはせせらぎあり、滝あり、ナ とにした。この作戦は成功し予想外に い、再びやぶ潜りが始まる。少し雲が

> もので、つい数日前建てられたばかり 歩する。頂上の避難小屋は雄勝町営の

のようである。暴風は二十一日夜から

一十二日夜半にかけてかなり激しく荒

れたが、私達はこのお陰で全く快適に

日を過すことができた。

認められ、ヒョッコリ頂上にとび出し

と共に氷雨が降りそそぎ、やがて霰に

た。風雨が強くならない中に湿原を散 る。四時前ガスの間から小屋の輪郭が いよ堅く、泳ぐようにして前進を続け 変った。最後のやぶは灌木の枝がいよ



- 須金岳より虎毛山を望む

(後方にかすむのは左から山伏, 高松岳)

対話ができたことに私共はすっ ど、人工の加わらない自然とゆっくり 本にも未だこんな所があるかと思うほ らずの短いものではあったが、公害日 この数日間の行程は、全長二十加足 の途についた。

#### のエ ベ V スト遠望 木 次

信

念願

らしいニスコーリ大氷河を踏破以来 峰マウント・レニヤ登頂の際、 トの威容を遠望した時は、昭和二年 ネパール国を訪れ、 の感激でした。 七月、北米のカスケード山脈の最高 ッキングにおいて、念願のエベレス 年十一月、 日本山岳会の仲間と ヒマラヤのトレ 、素晴

- 1071 -

ち山全体は深い霧に覆われ、

四十八年元旦

が見えかくれしていた。

まがうばかりであった。時々ガスが切

れ、遥か山麓の陽光に照らされた紅葉

風にふるえていた。池畔のイワショウ

ブの実を囲んだ大きな氷花は宝石と見

無数の枯茎にもそれぞれ霧氷がついて の花でふちどりされ、水面に突き出た ざ波のたつ池のまわりはすっかり霧氷 ない中を池塘群の見物に出かける。

2

二十三日の朝、風とガスの去りきら

#### 地 球 0 履 歴 書

### 伊藤秀五郎

凝縮の過程で随所に渦巻きを生じ、 星間空間のガスや塵状の微粒子雲が 原始の太陽は回転する大きな氷の雲 集まって凝縮したものだ。 であった。

低温から出発した原始地球は、 四十五億年前のことである。 外側の小さな渦からは九つの惑星が

十億年もたつと地球内部の鉄分が溶 けはじめる。 で加熱された。 内部の圧力と放射性物質による発熱

軽い成分とともに水分やガスも表面 溶けた鉄は中心部に集積した核を形 水分は後に海となった。 成し軽い成分は表面へ浮き上が に運ばれガスが集まって大気に、 て地殻を作った。

生物がいつ出現したかは明かではな しかし海洋形成時代の末期には、ア が整えられた。 ミノ酸が発生して生物出現の条件

原始生物は液晶質の有機構造から発 生したらしい。

おそらく最初の生物はビールス様の その時代の大気にはまだ酸素は含ま れていなかった。

やがて生物の一部は 水中の有機物のかたまりに寄生する 太陽エネルギーを使って炭酸ガスを ものだったろう。 同化し、酸素を放出する能力を獲 かたちで存在した。

> 地質時代がはじまり、 多細胞生物の出現はおよそ二十億年 長途の生物進化の歴史が 展開 さ 生物による光合成の誕生である。 得する。

始生代から原生代、古生代へと地殻 に大きな変動が続く 前のことだ。 大

二億年を周期に十回以上の大変動が 人規模な造山運動、溶岩の流出、 陸塊の出現

中心の大集塊にはやがて核融合反応

によって原子の灯がともり

そのつど生物界にも大変化がもたら

化石がそのことを物語っている。 六億年前にはじまる古生代には生物 **育椎動物は四億二千万年、爬虫類が** の爆発的な大発生があった。

類人猿と人科の分岐点は定かでない 前に現われた。 が、最初の人類はおよそ二百万年 は一億八千万年前に出現した。 三億二千万年、哺乳類と被子植物

ある生物群が地球上に大繁栄したこ この長い地質時代には、 中生代の爬虫類のように、 六、七万年前のことである。 最後にホモ・サピエンスが出現した。 かれらはいずれも化石人だが、 現代人に近いネアンデルタールは二 五十万年前にジャワ原人、 十万年前から生存した。

> 相 Ш

技術の進歩によって地球を征服 べして最後に出現した人類が、 しかしただ一種の生物が地球上を征 大脳の発達によって道具を使い 服したことはなかった。

最近のわずか二百年間に高度の産業 農耕文化が定着してから六千年だが 後期石器時代にはいって一万年

海水浴場はこの北涯寒冷の地では人影

数組の若人グループのみであったし、

は殆ど見えなかった。数十人の登山者

鋭い牙峰を聳立させてせり上がり誠に

い谷沢を隔てた仙法志尾根は、随所に

立となり海抜千m突に満たずして風当

たりに倒伏した偃松帯と移り変わって

岳は晴々と頭頂を露わしていた。また

宿の窓より眺めた山の夕焼は赤富士の

その結果は生物の生存をおびやかす 八間の生活はある意味で自然との戦 死の環境を作りだしている。 社会を生み

地球は人間が作ったものではなく、 しかし自然の破壊が人類の破滅を招 **人類の繁栄を予告するが、** 八間の能力を過信した未来論は こうとする。 て文明社会をつくりあげた。 し、利用し、改造することによっ

欲望のおもむくままにその破壊を続 未来を展望して節度を守るか、 目明の論理だ。 日然を天与の恩寵と考え 行するか、

へ類はいま選択の岐路に<br />
立って

三十余年ぶりの 利尻富士

ようなこの夏の一日、三十七年ぶりに 光バスの周辺と利尻岳の一般登山路の 昔に比すべくもなく人の寄る所は混雑 限られた部分だけであった。灯台山は の極みではあるが、それは波止場と観 較的静かな雰囲気であった。もちろん 踏を心に画いていた割合にしては、比 利尻島を訪れたがブームにのっての雑 ブームへと移りつつあると聞く。その 北海道の観光は知床ブームから離島

**人類は自然に挑戦することによって** 再生もできない。 高度の技術を獲得し、自然を克服

そして蛇も熊もいない山とて道内の登 りして進む無人境は、得もいわれず快 深田氏が長くてややだらだらとしたア もちろん登山者の姿は他にはなく、故 を固めて宿を飛び出し、一人旅の身軽 つつ好き勝手の歩調で歩みかつ立止ま 数鴬の転りに聞きほれながら、独言し 広濶なエゾマッの林の中を行き、駒鳥· プローチと評された裾合の緩い登りは さに沓形コースを辿るのであったが、 を目指し、夜明早々に地下足袋姿に身 いものであった。陰湿さのない森林、

けられJAC会員でもある氏家、浅利 スへと登って行った。 両君の顔も見えたが、彼等は鴛泊コー の群の中には札幌山岳会の一行が見受

憎と午後からの降雨で眺望は得られな 幸の夕餉は美味しく、楽しく久し振り ではない。沓形港の旅館は昔ながらの かったのは多少の心残りがなかった訳 富士を眺める心算であったのだが、生 果たし得なかった仙法志側からの利尻 がらの俤を残し曾遊当時の宿も古びた のであるが、鬼脇の部落は殆んど昔な 鬼脇、仙法志を通り沓形へと向かった 旅人宿で粗末ではあったが新鮮な海の 姿の侭残されてあった。そしてその昔、 に都塵を離れた身には天の美禄とさえ 小生は島内一周のバスに身を委ねて

感じられた。 翌朝は昨日来の雨もあがり朝暾の岳

なく、見晴らしのよい笹原と岳樺の木 岳は数百m突の高距ですでに針葉樹は 思わず老の口笛も出よう程であった、 解放された登山であったことだろう。 山で味わう心づまりがないのも、何と いや事実出していたかも知れない。 北僻孤島の故に森林限界の低いこの

そこは今迄の静かな桃源境ではなかっ 鴛泊コースの広尾根と合わさる。もう 落ち込んでいて、幾ヘクタールかの高 あろう赤くずれとなって奈落の底へと た。登る者、下山する者、若人の歓声 場を横断して次いで岩角を急登すれば 地域の尾根筋を暫く攀り、やがてガレ 絶景である。足元からは底雪崩の跡で 山植物地帯が押し流されている。偃松

となり歩き難いこと夥しい。頂上も多 ていて岩壁を彩っているのであった。 ウ、イワオウギ等可憐な花が咲き群れ の侭に残されウサギギク、イワギキョ の高山植物は比較的荒らされず殆ど昔 人数の雑踏に占居されていたが、付近 踏跡に蹴崩されてザラザラの砂礫の溝 内心苦笑しながら「やあ、ごくろうさ さん頂上は直ぐですよ」と労わられて が交錯していた。 ん」と応答しつつ足を運ぶが登山路は 薄靄の中の頂上ではあるが小一時間 それ等の人たちから「どうもご苦労

楽しい山旅は終りに近づき、振り返る はアゲハ蝶が飛び交っている。そのよ 敬遠し、再び静謐な沓形路を長閑に降 また鴛泊コースも単調さと雑踏の故に な所があるとのことでこれを割愛し、 スが荒れ、尾根道の一部に足元の危険 は快い疲労を双脚に貽して、その日の つつ降って行く。前後十二時間の登降 うな景色の中を緩くりと眺望を恣にし には明日再遊を期している礼文島が蒼 青屋根が小さく光っている。また右手 められ、それを点綴する村落の赤屋根 西陽を浴びる海岸線の屈曲が美しく眺 りることにする。天気はさらに恢復し 定であったが、春先の雪崩のためコー 途は鬼脇側に出て昔の登路を懐しむ予 の休憩を充分楽しむことができた。帰 く霞んで横たわっている。足元身近に

#### 凡 俗 淵

# 深田さんの言葉

#### 小 野 幸

なじみで通していた。でも会えば、堀 つきあいではあったが、戦前からの顔 とは、「ヤア」「ヤア」と言うだけのお ひとしお感ぜられたであろう。わたし かまの図書委員の方々はさみしさが、 も大きなショックをあたえたが、おな 深田さんの急逝は、いずれの会員へ

> だ。その中から彼の文らしいものをす 以来すつかりごぶさたしていたが、 ったわたしの後輩の近況、山の本のニ 辰雄の話、戦争中に兵隊でお世話にな つとめ先の図書室から『雪白き山』と 『瀟洒なる自然』の二冊をかりて読ん ュースなど、話はいつもつきなかった。 深田さんの本には名著『わが山山』

収しているのであろう。

での縦走を終えた。針木峠から辻本は とともに、七月二十二日には針木峠ま 本満丸(二〇番)と三枝守博(三五番) 郎(会員番号一五三番)は、同行の辻 ョウを日本で初めて採集した中村清太 スの種池近くで、珍蝶クモマツマキチ 明治四十三年七月十八日、北アルプ いると、凡俗の淵に堕ちたと嘆く」とど、暫らく私が山登りから遠ざかって あるところから、名づけたのである。 の中の「私より七つ先輩の不二さんな こし抜き書きさせてもらった。 題名は『瀟洒なる自然』のあとがき っている褐色の蝶を見つけ、高野に蝶 わった。そのとき、高頭が地面にとま

を実行に移したわけである。 という、その時代としては壮大な計画 岳に到り、雲の平から薬師岳に向かう 岳に登り、西鎌尾根から鷲羽岳、水晶 屈指のメンバーで、上高地を経て槍ヶ た。この三名のパーティは当時の日本 北アルプスに向かうべく東京を出発し 野鷹蔵の三名(何れも本会発起人)は で休養をとっていた。 その日、高頭仁兵衛、小島久太、

月二十四日には久し振りに平の渡たし

人の人夫を伴って針木谷を下って、七

大町に下山し、中村、三枝の二人は三

往し、何とか通過できる場所を探しま 翌二十八日は双六岳を経て三俣蓮華岳 月二十七日には無事に槍ヶ岳を越え、 は方角を失い、ハイマッの中を右往左 くに達したとき、濃霧が発生し、三人 にさしかかった。三俣蓮華岳の頂上近 このパーティは天候にも恵まれ、七

> った。三人はどうやら三俣蓮華岳を越 この蝶ばかりは高野も知らない蝶であ に名前をきき、高野はすぐ答えたが、 小島の二人も蝶を見つけるとすぐ高野 究では第一人者であったので、高頭、 やく捕虫網で採集した。高野は蝶の研 見たこともない蝶だ」といって、すば の名を訊ねた。高野は「これは珍しい、

と清浄さを、わが国民は精神の中に吸 福な国である。そしてその雪山の潔白 かもしれない。白い山の多い日本は幸 古から受けついできた素朴で根強い魂 地でたくさんだ。 を山の上まで持って行く気はない。平 構である。男女のカットウや殺人事件 たずねられる。私は山は登るだけで結 から、なぜ山の小説を書かないのかと 白い山をたたえる気持は、人間が太 私は小説を書くのが本業で、よく人

も採集して持ち帰りたいと考えた。先 すぐ飛び去ってしまう。そしてまた近 もちろん今までに見たこともない蝶で て、この蝶は非常に敏感で、近づくと の虎の子クモマツマキチョウと違っ ったことを後悔した。しかしどうして あった。中村は捕虫網を持ってこなか た。地面に羽を斜めにしてとまる蝶で、 稜線上で、中村は不思議な蝶を見つけ 薬師岳の頂上から三十分ほど降った 

をするわけではないが、エヴェレスト ざるを得ない。そして彼等がただの すると、何かほほえましい気持になら ちが文学論をやっているところを想像 の氷河の上のキャンプの中で、隊員た 山屋」でないことを悟るのである。 私は文学者であるから文学のひいき

トを探し出すことに血眼になる。 選ぶが、ヒマラヤでは一番安易なルー アルプスでは求めて困難なルートを

み耽る。一枚の地図と一冊の文献で、 に腰をおろして、探検記や登山記に読 私は壁の地図を前に、古びた籐椅子

三枝、中村のパーティは薬師岳、黒部 さらに一匹同じ蝶を採集した。一方、 く、鷲羽岳を越え赤岳に向から船形の 日の七月二十九日には水晶岳に登るべ よう」と新名まで考えていた。 違いないから、タカネヒカゲと命名し た。そして「日本では初めての蝶に間 しいこの珍蝶を手にして興奮してい 窪地を通っていた。この道でも高野は 高頭、小島、高野のパーティは、翌

山と蝶のものがたり 奇蹟の高山蝶タカネヒカゲ 10

田

俊 郎

え、霧の晴れ間には薄日もさすように の金剛杖の下に、また先刻と同じ蝶が 降っていった。そのとき、今度は小島 なったハイマッの斜面を五郎沢の方に

薬師岳を越えて、大郎兵衛平への降路 にさしかかっていた。 三枝のパーティは、七月二十八日には の珍蝶をたちまち捕えた。 一方平から五色ヶ原に登った中村、

野が捕えていることなど知る由もない 蓮華岳付近で同じ日の同じ時刻に、高 ように思えた。これと同じ蝶を、三俣 面の色とそっくりですばらしい珍種の くの地面にとまる。羽の裏の模様は地 た。中村はいかにも高山地帯にふさわ たら、ほうびに一円やる」といった。 中村は、三人の人夫に「この蝶を捕っ 匹だけやっと採集することができ 中村の執念はようやく報いられて、

いたので、高野に教え、高野は二匹目

号と考えていた。 ものと確信していた。中村も七月二十 の蝶をもう一匹採集した。 八日に薬師岳で捕えたのが日本の第 二匹捕えたのであった。高野は七月二 同じ年の同じ頃、高野が三匹、中村が -八日に自分が日本で最初に採集した 結局、この日本で初めての高山蝶は

れた。(文中敬称略) 希望により、タカネヒカゲと名づけら 光茂のところに届けられたのが真の第 岳の横岳で採集しており、諏言の千野 日前の七月二十七日、牛山伝造が八ヶ 一号であった。この蝶は中村、千野の しかし実際のところこの蝶はその一

ぶのである。 私の魂は遠く世界の屋根の上に飛

のだが、ここでは見おろす立場に あろう。普通地上では雲は仰ぐも 山上の最大の雲の饗宴は雲海で

としか見えないのだろう。 それまでの道中などは無駄なもの いう一種の勝負にしか関心がなく つまり今の登山者は、山登りと 登山には古典がある。一世紀も

存在するだろうか。 前の登山家の紀行が今なお尊重さ 店で高値を呼んでいる。棒高飛び れ、愛読され、その刊行本は古書 やレスリングに、そういう古典が

とするにはいい場所だ。 ら、まあ仕様ないさ。永遠の臥床 わない。好きな山で死んだのだか 悼む心はあっても、惜しいとは思 ら命をなどと考えたことはない。 私は山登りが好きだから、あた

ゆめあたら男を、などと言ってほ ふうに思っていただきたい。ゆめ しくない。 もし私が山で死んだら、そんな

岳に達し、その頂上近くで、 五郎岳を経て、三十一日には三俣蓮華

やはりこ

私とて彼等のあとを追わないとは 立って、彼等の名を呼んでみる。 でも山やスキーに行く。雲の上に あの世へ行ってしまった。私は今 てることだろう。私を残してみな なに私の生活を楽しくさせてくれ だった。みな生きていたら、どん だれが言えよう。 遭難はどこにあるかわからない。 以上四人とも私には大切な友人

『山岳』覆刻版第二年第一号発売中

# 武田久吉著作

展

## 出品目録・解題(抄録 2

## 単行書

がうかがわれる。共に写真多数。 書きとどめて後世に残そうという意図 の石像や、農村の伝統、行事、習慣を ある。ともにすでに滅びつつある路傍 は民族学研究の成果を著わしたもので の委員をしておられ、この二冊の著書 日本の自然美 昭和二一年 富岳本社 武田氏は国際民族民芸学会(パリ) 農村の年中行事 昭和十八年 竜星閣 道祖神 昭和十六年

枚の多色刷りの版画は美しい。武田氏 が概説九頁、各論五二頁の執筆を担当。 植物の版画が各頁に貼られ、特に三三 紙の大型本で、船崎氏の手刷りの高山 のほか、雑誌『科学画報』所載の、 なりアカデミックな学術的解説。 美、自然の錦の四篇を加えて単行本と 士山見学、高山植物の生活から、緑の したもの。『科学画報』所載の四篇はか 画家船崎光治郎氏と共著。上質の和 高山花譜 昭和二二年 富岳本社 風景の保護と改造、風景概論の二篇

毬果の形などをそれぞれ刻明に写して

示し、『針葉樹』は樹林、樹形、葉の形、

『高山の花』は一〇三種の高山植物を

植物」などの稿に著書の労苦が偲ばれ 学の面の著作を集めたもので「地名と 名義」を書き加えた計二十一篇。民族 小文二十篇に、新たに「草木の方言と したり『東京毎日新聞』などに書いた れたと驚くような豪華本である。 雑誌『民族文化』『ドルメン』に発表 民族と植物 昭和二三年 山岡書店

昭和三十年

同和春秋社

## 日本高山植物図鑑 昭和二五年

北

図説は各頁二種類ずつの図と解説を載 の共著。本文は概説と図説に分かれ、 武田久吉、田辺和雄、 竹中要の三者

> 容も権威があり、かなりの版を重ねた。 小型でポケット版。携帯に便利で、内 類の解説は約四百字でかなり詳しい。 尾瀬 昭和二六年 岩波書店 富士山 昭和二五年 岩波書店

写真(解説付)が六四頁。B6判で定 も兼ね、高山植物の写真も多い。『野の 花―春』は七三種の馴染み深い植物を、 光』『上高地』『富士山』は登山案内書 光』は武田氏他一名の共同監修。他の 価一〇〇円。このうち『富士山』と『日 六冊は武田氏の単独監修。『尾瀬』『日 日本の森林 昭和三十年 岩波書店 上高地 昭和二八年 岩波書店針葉樹 昭和二七年 岩波書店 野の花―春 昭和二六年 岩波書店 以上八冊はいずれも岩波写真文庫、 日光 昭和二六年 岩波書店 高山の花 昭和二七年 岩波書店

針葉樹を見分けるのに便利である。 『日本の森林』は各森林帯の天然林の 御花島 山岳講座第三巻 昭和二九 白水社

の紀行が中心。 花畠」はその中の六頁。明治三十五年 に訪れた日光太郎山のお花畠について 二十六人の分担執筆。武田氏の「御 高山植物をたずねて 観察と実験文

恩恵を受けた会員も多い筈である。前

をもつようになった登山者も多いし、

戦後間もなく、よくこんな本が出版さ

燕岳、八ヶ岳の七つの山をえらび、そ ちの一冊。中学生でも登山できる富士 れた『観察と実験文庫』三十数冊のう 山、御岳山、乗鞍岳、槍ヶ岳、白馬岳、 の登山案内を兼ねて高山植物を興味深 中学生の理科の参考用として出版さ

山と溪谷社 高嶺の花 昭和三一年

せ、二百頁、四百種を扱っている。一種 み合わせてある。 と武田静江氏の「或る年の尾瀬」が組 説。自宅で読んだり、雨天の日に山小 三五種の代表的な高山植物を詳しく解 氏の『山岳』一年一号の「尾瀬紀行」 歴史などが加えられ楽しみの多い本。 屋の中で読むのに適し、伝説や研究の 八組の父子による分担執筆で、武田 父と子の山 昭和三二年 中央公論社 ポケット型の高山植物の解説書。

三年 山と溪谷社 山の樹木 登山講座第三巻 昭和三

の中の十一頁。森林の形態、針葉樹、 りでやさしく解説。 山地でみかける樹木などについて図入 著で、武田氏の著作「山の樹木」はそ 二十三人、二団体の執筆者による共

原色日本高山植物図鑑 昭和三四年 続原色日本高山植物図鑑 昭和三七

術の粋を集めて鮮明であり、この二冊 る。この図鑑によって高山植物に興味 でほぼ完璧な高山植物図鑑となってい は二一〇種を取扱い、解説は一種類に る集大成。前者では二七○種。後者で 定版で、著者の高山植物分類学におけ つき三百字前後。カラー写真も近代技 カラー写真による高山植物図鑑の決

明治三八年までの日光諸山、八ヶ岳、 気を保っている。 山の紀行文が加えられた。前者は現在 甲斐駒ヶ岳、尾瀬などの著者の採集登 十一版、後者は六版を重ね、絶大な人 者の第二版以降には、明治三一年から 北

日本高山植物図鑑 昭和三六年

頁で専門的な記述があり、あとは種類 ごとの図説で、分類学的順序で四三二 あった田辺和雄氏との共著。概説六二 武田氏とその愛弟子であり協力者で

種が詳しく解説されている本格的

約

# 高山植物

のに便利。ハイマツの生態が詳しい。 って路傍の高山植物をその場で調べる 単な解説がついている。山に持ってい つき二枚二種の美しい写真があり、簡 ポケット型の高山植物図鑑。一頁に 尾瀬と鬼怒沼 日本山岳名著全集

『尾瀬と鬼怒沼』と、冠松次郎氏の『黒 集の5となっている。代表作として再 部溪谷』の二篇で一冊にまとまり、全 昭和五年に梓書房から発行され

無ではない」のであって、再録は大い 立と小島烏水君」など七篇。大部分は 部は「大雪山を行く」など十二篇。第 れたように「後世に残すべきものも皆 であるが、著者自身が巻頭言で述べら 三部は「風景概論」「日本山岳会の創 は「尾瀬ヶ原の神秘」など七篇。第二 に意義深いといえよう。 『山岳』などの雑誌に掲載されたもの 一部に分けてまとめた短篇集。第一部 著者の七十年間に亘る山旅の記録を 山への足跡 昭和四五年 二見書房

### 登山と植物 日本岳人全集 日本文芸社 昭和四

は各雑誌に書かれた紀行、随筆を集め 嶺の花』は昭和三一年山と溪谷社発行 社発行の同名の著書六篇の再録。『高 出書房発行の『登山と植物』の再録。 七巻。最初の二六三頁は昭和十三年河 の同名著書の再録。最後の雑纂二二篇 『日本の自然美』は昭和二一年富岳本 日本岳人全集第一期八巻のうちの第

路傍の石仏 昭和四六年 第

る上に重要な『博物之友』所載の報告、

記事と、武田氏の登山記録と山に対す

る考え方を知るために重要な本会会誌

『山岳』に掲載された著作のみを抜粋

その題名を紹介する。

残そうとする民族学研究家としての著 昔のものが失われないうちに後世に

図 者の情熱と責任感がこの大著をなさせ 篇・庚申塚の二部にわかれ写真多数。 たものと思われる。前編・道祖神、

保育社カラーブックス

六年以降の頃に妙義山、日光など六篇。 自伝的登山史をまとめたもの。明治十 約二ヵ年に亘って連載された武田氏の

国立公園協会の会誌『国立公園』に 明治の山旅 昭和四六年 創文社

度刊行されるのは当然であろう。 昭和四一年 あかね書房 斐駒など十四篇。明治三十八年は日光明治三十四年以降の頃には女貌山、甲 知る上にも明治年間の山や小径、山人 篇。明治四十年から四十五年の頃には 年の頃には大菩薩峠、富士山など一三 から尾瀬、白馬岳など八篇。翌三十九 て大登山家として成長していく過程を への情熱、植物に対する探究心、そし 「失敗の仙丈岳」など六篇。著者の山

学者、登山家としての武田氏が現わ 研究調査に関する報告は省略するとし 思われる。このうち、植物の分類、生 門誌に掲載されたものは非常に多い。 れ、日本山岳会が生れてくる模様を知 ようになった過程を示し、やがて植物 代から植物に惹かれ、次第に山に登る れたり、再録されていると思われる。 今までに書いてきた単行本にまとめら 随想および山に関する紀行、随想など 態、分布に関する学術報告や、森林樹 七十年余りに亘って、数百篇はあると も非常に多い。そのうち、主なものは 木、森林保護に関する論文、民族学的 ても、高山植物に関する科学啓蒙記事、 そこで、次号では、武田氏が中学時 武田氏の著作で各種の新聞、雑誌、専

の様子を知る上にも重要な文献であろ

章まで約一五〇ページに亘って詳述さ うべき天山探査が、第五章から第十八

B 6 判 三九八頁 定価九五〇円

九七二年一二月

フの生涯におけるハイライトともい

#### 図 書 紹 介



## ―天山に魅せられた探検家たち― はるかなる天山

在、歓迎すべきことであると共に、四 よって訳出刊行されたことは、ロシア 語の探検関係の訳業が未だ不充分な現 本会会員田村俊介氏(在モスクワ)に アルダン・セミョーノフ著の本書が、 セミョーノフ著

の労を多とする

○○ページに近い大冊を訳された訳者

行』は、樹下節氏の抄訳が昭和三十三 山々脈探検であり、その著作『天山紀 れで充分に知り得るのである。 簡潔明快に述べてあるので、概要はそ にくい。併し深田久弥氏の『中央アジ 年に刊行されているが、現在では求め 無論、世界探検史上でも最も早期の天 ミョーノフの二回に亘る天山々脈探査 章をもうけ、そこに彼の天山探査を 田村氏による新訳書には、セミョー 探検史』にはセミョーノフを扱った 一八五六、五七年)は、ロシアでは ピョートル・ペトローヴィッチ・セ

年時代から自然の美しさに惹かれ、植伝記であるから当然のことながら、少 などが、屢々巧みな文学的表現をもっ て語られている。 であったオランダの絵画の蒐集のこと たこと、また若い時代から彼の楽しみ さらに北極圏への数々の探検を支援し ワリハーノフ等々の中央アジア探検や ルツォフ、グルム=グルジマイロ兄弟、 イ、ポターニン、ペフツォフ、セヴェ りでなく、有名なプルジェヴァリスキ 会長になってから、学術上の活躍ばか さらに一八七三年ロシア地理学協会副 面の違った農奴解放運動に忙殺され、 物に異常な興味を持ったこと、また、 一回の天山探検が実現されず、全く方 八六〇年に挙行される筈であった第 そればかりでなく、セミョーノフの

ニストとしての彼を、あたたかい筆致 ながら、探検家、地理学者、ヒューマ もって多彩な、充実した生涯をとじた で綴っている。 の騒然たる社会状勢を底流として描き が、伝記作家の著者は帝政ロシア末期 ノフは、一九一四年二月、八十七歳を 一八二七年一月に生誕したセミョー

う。固有名詞(人名、地名)で、何回 は惜しまれる。 であろう。誤植がかなり目につくこと らかにシュラーギントヴァイトの誤り か出てくるものに、一部統一を欠いて 個所がなくもない。もう少し時日をか ァイト(一七二ページ他数個所)は明 いるものがある。またシューギントヴ け推敲されたらよくなかったかと思 れているが、僅かに首をひねるような 訳文はおおむね読み易い邦文に移さ

た方が、内容に添うように思う。 なお副題は一セミョーノフ伝ーとし

新時代社刊 望月達夫

図 書 室 便 ŋ

新刊図書受入報告

山形県総合学術調査会編『鳥海山・ 飛島―総合学術調査報告書―』 昭

東京新聞社寄贈

(1)女子登攀クラブ著『アンナプルナー 諸岡一次氏寄贈 女の戦い7577mー』 昭和48

(2日本万歩クラブ編『東海自然歩道全 (1)上山春平編『照葉樹林文化』昭和4 ガイド』 昭和45

(4奥武蔵研究会編『随筆奥武蔵・第 (3)安川茂雄著『山への祈り』

(5)奥武蔵研究会編『随筆奥武蔵·第二

(6)アマチュア・ビヴァック・クラブ編 昭和35 昭和10~昭和11

(1)野中至著『富士案中』 薬師義美氏寄贈 小松勇氏寄贈 (1)高橋照著『マナスル西壁』 明治34 昭和47

(1)薬師義美編『ヒマラヤ関係図書目録』

①武田久吉著『路傍の石仏』 武田直子氏寄贈 近藤信行氏寄贈 (1)早稲田大学探検部編『エクワドル・ アンデス遠征報告書 '61 \_\_\_ 昭和38 昭和47

①日本山岳会編『山岳―第66年―』

岩永信雄氏寄贈

定期刊行物受入報告 〔気報・会報類〕

山村民俗の会『あしなか』 No. 134 (47-11), No. 135 (47-12)

(昭和48・1)

(5)京都山岳会『京都山岳』

昭和34 昭和42

(7成田図書館編『山岳文化展目録』 高橋照氏寄贈

(1) 『岳人』 No. 308(48—2) (2) 『岩と雪』 No. 29(48—2) (3) 『山と溪谷』 No. 413(48— 「その他」

③福島県浅川山岳会『中華民国台湾省 (4福島県浅川山岳会『訪華親善登山隊 報告書 72』 玉山親善登山報告書 72』

(7)法政大学ワンダー・フォーゲル部() シックル・ムーン B会『訪韓親善済州島漢拏山スキ

②兵庫県山岳連盟『兵庫山岳』 No. 68

(3)日本地図資料協会『古地図研究。 (4)国立公園協会『国立公園』 No. 34 (47-12), No. 35 (48-1) (47-12)No. 277

(6)日本山岳協会『山岳手帳』 (48-1) 73 (47

No. 573

(7)東京野歩路会『山嶺』 No. 513 (48 -12)

(8)日本自然保護協会『自然保護

No. 126 (47-11)

(9低い山を歩く会『低山』 No. 91 (48

伽神奈川県山岳連盟『ときわ木』 No. 30 (48-1)

①横浜山岳会『山』No. 486 (47—12) 11日本山岳協会『登山月報』 No. 487 (48-1) (48-1)No. 46

①日本登山協会『山と雪』 No. 177

(48-1)

『山と溪谷』 No. 413 (48-2)

(1)福島食糧会津山の会『いなほ ②愛媛県山岳連盟『愛媛県山岳連盟報 No. 9 (47-12) No. 2 (47-12)

(6)東京農業大学山岳会『東京農業大学 (5埼玉県不動岡登高会『韓国雪岳山登 山報告書 72~73』

> (新着海外雑誌 登山隊計画書 '73 \_\_

1. "Alpinismus" '72-12.

"Appalachia bulletin" Vol.38, No. 10, November '72.

"Der Bergsteiger" Jah. Dezember '72. 39

"La Montagne et alpinisme" 24, Heft 6, November/Dezember "Deutscher Alpenverein" Jah.

7. ng" Jah. 90, Folge 1385, Sept-"Österreichische Alpenzeitu-"Mountain" No. 24, November Annee 98, No. 84, April '72.

"Rivista Andina". Nr. 92, Julio ember/October '72

"Rivista mensile" Anno N. 9, Settembre '72. 93

10. "U.I.A.A." No. 51, Octobre

井口邦利氏寄贈 地図受入報告

"Kashimir. Himachal"1:50000.

お 知

#### Щ 돖 史懇談 会

場所 名誉会員・三枝守博氏 本会ルーム 三月二十九日(木)午後六時

うかがいたいとおもいます。会員諸 期の日本アルプス登山のことなどを 初期『山岳会』のこと、明治・大正 的で、この会が計画されました。第 諸氏の山における足跡を勉強する目 一回として三枝名誉会員をお招きし 日本山岳会の歴史、あるいは先輩

氏のご参集をお待ちしております。

まりましたので、お知らせ致します。 おいて左記のように会費の値上げが決 会費納入期日は、昭和四十八年六月 昭和四十七年度通常会員臨時総会に 会 告

記

末日です。

一、入会金 会費 七、000円

・東京都、神奈川県、埼玉県、千 国外に在住する者 一二米ドル 右以外の国内に在住する者 および支部で定めた支部費 三、五〇〇円 五、000円

3 入会承認の通知を受けたときは

・入会後五年以上在籍せる者 三〇年以上 二〇年以上 四〇年以上 一〇年以上 一〇万円 八万円 四万円 五万円 六万円

第六条 日本山岳会改訂定款抜粋 (昭和四十八年二月七日認可) 本会の会員は次のとおりと

部費 国外に在住する者一二米 五〇〇円および支部の定める支 右以外の国内に在住する者三、 通常会員 本会の定める入会金 葉県に在住する者五、〇〇〇円 東京都、神奈川県、埼玉県、千 費を納める個人または団体。 七、〇〇〇円および左記の年会

2 終身会員 本会に入会後滿五カ 年以上在籍せる個人会員にして 所定の終身会費を納めた者但し

> 終身会費は次のとおりとする 入会後五年以上在籍せる者 一〇万円

四〇年以上 三〇年以上 二〇年以上 一〇年以上 四万円 五万円 六万円 八万円

2 通常会員は当該年度の年会費を の分として六月三〇日迄に納え 毎年四月一日から翌年三月末迄 等の送付を停止することがある 納入を怠った者に対しては会報 しなければならない。年会費の

第一二条 会員が次の各項の一に該 れを除名することができる。 当するときは総会の議決を経てこ ることができる。 を滞納し理事会の請求があって 本会に対し、三ヵ月以上諸納金 および会報『山』の配布を受け 年度に発行される機関誌『山岳』 度の年会費を払込むものとし当 も納入を怠ったとき。 一週間以内に入会金および当年 (以上)

# 会費値上げについてのお願い

から値上げにかかろうという事になっ があったので値上げの前にまず督促を 未納の会員数も相当多く、一方、これ 案になっていたが、ここ数年来、会費 たのは、昨年の初め頃であった。 積極的に行い、納入率の向上を計って に対する督促もいささか緩慢のきらい 値上げの理由としてはもちろん諸物 会費値上げについては一昨年来の懸

実数を摑み、値上げに踏み切ろうとい 納入率を示す率が出来た。 従来の納入率を遥かに上回る八五%の その反響を待った結果、四十六年度は 数百名に対し丁重なる督促状を送り、 う事で昨年初めいちおう滞納会員約千 払い、あわせて几帳面な会員の正確な 払って下さる他の会員諸氏に対してい きなり値上げ云々というのも几帳面に ものに対する督促に積極性を欠き、 従来よりもっと積極的に督促に努力を いわけが立つものでもないので、まず

式許可も去る二月七日付をもって受領 官庁たる文部省体育局スポーツ課の正 会費値上げの件に伴い、あわせて定款 ないような状況であったのでこの際、 では現状にそぐわぬ点もあり、また、 議員会において正式に値上げの件を取 細則についても会員各位に徹底してい で会員各位のご諒承を得、その後監督 上げる事に決定し、同時に従来の定款 細則の変更も行った。幸い臨時総会 そこで初めて四十七年七月の理事評

多かったようであるが、四十八年度分 っているが、ここにお願いしておきた を全会員に送付しご覧いただく事にな からは必ず六月末迄に全納していただ 入すればよいと思っておられる方々が いのは従来会費の納入は年度末迄に納 く事になったのでこの点なにとぞよろ いずれ更めて新定款・細則の印刷物

9 日 8 日

(火) 図書委員会

10

日

成瀬岩雄記

(木) 明治大学山岳部

19 日 17 日 16 日 11日

(金)明治大学山岳部

(水)明治大学山岳部

(火) 学生部委員会

(木) 探検と冒険展打合会 (水)集会委員会 青年懇談会

23 日

火) 常務理事会

員たる以上は当然払込んでいただける 価の騰貴が主たる原因ではあるが、会

# 上高地山岳研究所

よろしくお願いしたい。 る。雪どけを待って最後の仕上げ さんから届けられ、ホッとしてい 地山岳研究所の写真が会員広羽清 にとりかかることになっているが 会報三二九号でお約束した上高

しくお願いしたい。

も拘らず献身的努力をもって専心さ の諸氏、特に織内評議員は多忙の身に である織内、加藤、小原、望月、中屋 次第である。 言をいただいた事も定款改正委員の一 六番)又木周夫弁護士から有益なる助 れ、また、永年会員(会員番号 五八 人としてここに併せてご報告申上げる なお、今回の変更に際し、改正委員

> 募金は一二〇%をめざしている。 まだ募金に応じていない方は、 金 額 三、九四八、九〇三円 応募件数 四六六件 目標額対比 七八・九% 募金状況(48・2・27現在) 六七八七 久保 七三二六 改姓 終身会員

二月理事評議員会

会長 中屋 ▽出席者

〉議事 松永 大森 須田 丹部 今井監事 伊倉 宮下 三田会長 成瀬 吉沢副 (九日六時本会ルーム) 坂下 帰山各理 金坂各評 近藤

ルーム日誌(48年1月)

(月)明治大学山岳部

Meet 派遣の件 る。支部長会議は前日午後六時から開 一日午後三時より本会ルームで開催す 四十八年度通常会員総会は四月二十 ・昭和四十八年度通常会員総会の件 International Mountaineers'

27 日 26日(金)海外連絡委員会 (土) 学生部委員会 会 青年懇談会 集会委員

29 日 30日(火)山日記の会 31日(水)書評委員会 一月中来室者 三〇八名 (月) 自然保護委員会 婦人懇談会

会員異動(48年1月)

七一四四 二九〇八 桑名 長田喜久子 小倉 董子 旧姓佐藤 旧姓米倉

物故会員

健

昭和四八・一

とあるを取消します。 47年度除籍者欄中四五三五 ・一〇逝去 訂正 会報三三一号会務報告昭和 福原健司

会負担とする。この件了承 本会から三田会長を派遣したい。往復航空旅費は実費本 一十一日まで、ダージリンで国際会議が開催されるので インド山岳会の創立二十周年を記念して、五月十四し (中屋)

昭和四十八年度収支予算は、千九百余万円を見込んで ・昭和四十八年度予算案の件

収入は大幅な増収が見込まれるので、なお五百余万円の 討して次回理事会にはかりたい。この件了承 余剰金が出るものと予測される。さらに常務理事会で検 度の余剰金から繰り入れることになるが、本年度の経常 おり、収入に対し百四十余万円が不足になるので、今年 ・ルーム移転の件 (中屋)

理事会で検討した上ではかりたい。 ことになった。移転先など種々の問題があるので、常務 いたが、契約通り五月末限りで移転しなければならない 加藤評議員を通じ、再三向井組と交渉をしてもらって ▽報告事項 (中屋)

員会で審議したが、本年度は見送ることにした。(三田) 一郎氏が葬儀に参列、弔辞と生花をお供えした。(中屋) ・登山技術講習会は五月十八~二十日まで富士山で開 ・四十七年度名誉会員推薦について十二月十一日評議 ・信濃支部アンナプルナー峰登山隊後援の件(中屋) 山梨支部長三井松男氏の逝去に際し、本会より山田 (松永)

それぞれ行事予定について報告があった。 ・その他、婦人懇談会、青年懇談会、図書委員会より

くの雨で中止になりました。 四十数名の参加予定者があったにもかかわらず、あいに アンチケーブルコースと、種々様々なコースを楽しみに ャブジャブコース、バテバテコース、ケーブルコース、 第二八九回小集会報告 堀割の水面を秋風が静か 大岳山の集中登山は、ジ 十月二十二日、奥多摩

報告いたします。 本誌をおかりして厚くお礼申し上げるとともに成績をご れた。二三チーム、参加人員一三〇名と盛況であった。 十二日(日)、 恒例の学生部第九回マラソン大会が行わ 学生部マラソン大会 にわたる皇居周辺で十一月

#### "Mountain"

"マウンテン"は英語の登山雑誌としては世界一です。 ・毎号、アラスカ、アンデス、ヒマラヤ、アルプス、 ョセミティなどの新しい登攀記事で一杯です。 -流の登山家による興味ある記事,写真も立派。

> 年六回刊行、バック・ナンバー豊富。 購読料: 一年 2000 円又は6米ドル 送り先: Mountain Magazine Ltd., 30 Collingwood Ave, London, N. 10, England.

(国名,氏名,住所ははっきり丁寧に書いて下さい)

発行所 法员 東京都港区赤坂一丁目三番六号 東京都千代田区神田錦町 三一三向井ピル 編集代表 坂 日本山 振替口座東京四八二九番 (293) 七四四 下 心 会

わびいたします。 下石川理恵、和沢直美(参加者一二名) 宮記念学術賞を授与された。(S) Kathumandu の誤まりにつき訂正お わりに Katsumandu とあるのは は新谷剛の誤まりにつき訂正、同文お は雷鳥の誤まりにつき訂正、同号八頁 んをお訪ねしての文中、雷魚とあるの する研究により、三月二日第九回秩父 は、多年にわたる日本の山地地形に関 アンナプルナ1峰の計画文中、教谷剛 あとがき 本会名誉会員辻村太郎氏 訂正 会報三三二号四頁辻村太郎さ

昭和四十八年三月十日発行

(11

△) ▷個人戦(男子三周 女子一周) 男子一位 分三四秒)、以下早稲田大A、上智大A、(参加二三チー

▽団体戦(四周 各自一周)

一位青山学院A(七一

英樹 (五八分一四秒)

桑原真由美(二三分一六秒)、 以下藤田文明、高橋努(参加

#### 茗溪堂一山の本

東京都千代田区神田駿河台2のI・Tel(291)9442振替東京24723

#### ブータン感傷旅行

小方全弘著

-<菊判280頁>定価980円

#### 森林・草原・氷河

加藤泰安著

〈A5判482頁〉定価1,500円

すこし昔の話

初見一雄著

<四六判400頁>定価1,200円

#### 遠い山・近い山 望月達夫著

〈B6判334頁〉定価960円

山の古典と共に 大島堅造著

〈四六判280頁〉定価1,500円

#### 雪山・藪山

川崎精雄著

〈A5 変型判340頁〉定価1,200円

雪原の足あと 坂本直行著

〈B5判206頁〉定価2,800円

#### 遙かなる未踏の尾根 マカル-

日本山岳会東海支部 〈B5判430頁・カラー64頁〉定価4,800円

#### 山日記1973年版

日本山岳会編

<A6 判344頁>定価850円

66年 2,300円 65年 2,000円 64年 2,000円 63年 2,200円 62年 2,000円 総索引 1,000円 Ш 岳 日本山岳会編 < A 5 判>

#### 国立公園 カレンダー

国立公園協会編

< A 5 判リング綴リ>定価960円 屋久島・美しい豊かな自然

〈B6判202頁〉定価480円

山で唄う歌 1集・2集 戸野昭·朝倉宏編

〈A6判126頁〉I集240円・2集280円

#### いろりばた

南会津山の会

〈B24どり判320頁〉定価1,900円 シプトンの自叙伝

#### 未踏の山河

大賀二郎· 倉知敬訳

〈A 5 判440頁〉定価1,900円

#### 日高山脈

北大山の会編 〈菊判362判頁〉定価2,200円

#### 山に忘れたパイプ

藤島敏男著

〈菊判584頁〉定価2,500円

#### 日本の山旅

足立源一郎スケッチ帖

〈A変型208頁〉定価3,600円

#### 登頂ゴジュンバ・カン 高橋 進編

〈A5判350頁〉定価900円

#### 登山・スキー用具専門店

#### ●買い易い 山の店

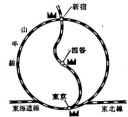
### 山の店

大阪市北区梅ケ枝町101 TEL. 06(362)5736

- ●北へ来たら 山の店
- ●フレッシュな 山の店

#### 山とスキ\_の専門店

東京都文京区湯島3丁目38-9 片桐 盛之助 電話 東京(831) 1794·6680番



四 谷 店 東京都新宿区三栄町三番地 TEL (351) 7432-1912

八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五 TEL (271) 1560-8575

新 宿 店 新宿ステーションピル四階 サービスショップ T E L (352) 6 5 6 4

日本信販加盟店



なにろ人間ですからなたころ人間ですから を うしても必要なもの こらえて売る

かたろ("シンテイ でんや 281~8456 中央区・八重ス401

秀山莊

登山とスキー具



東京都中央区日本橋通2-1 PHON; 271-7686 · 1718

# 登山朋具。專門店